

# 北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会  
 会長 大久保雅人  
 事務局 札幌市立しらかば台小学校  
 事務局長 野村 邦重  
 TEL (011)852-4090  
<http://www.hokkaido-sla.jp/>  
 印刷所 ㈱北海プリント  
 TEL (011)811-2396

## 第30回 絵と文による冬休み読書大賞審査終わる

昭和55年度から冬の読書感想文コンクールとして実施されている『絵と文による冬休み読書大賞』は今年で30回目の節目を迎えました。応募総数は4107点、前回よりも500点近くも増えました。審査の結果、絵と文部門の大賞一席は、札幌聖心女子学院高2年寺井紀恵さんが、読書感想絵ハガキ部門の北海道学校図書館協会賞は、北海道教育大学附属函館小1年藤澤柊生さんが選ばれました。両部門ともに読書から受けた感動を絵と文でていねいに表現した作品が上位を占めました。次頁からは、大賞4作品の感想文、上位入賞者一覧等を紹介します。

### 絵と文部門



大賞一席  
 札幌聖心女子学院高2年  
 寺井紀恵



大賞二席 釧路市立鳥取西小3年  
 太田美月



大賞三席  
 函館市立港小6年  
 川合優永



大賞三席  
 札幌市立もみじ台南中2年  
 小野萌夏



「サルくとブタさん」

北海道学校図書館協会賞  
 北海道教育大学附属函館小1年  
 藤澤柊生

(『サルくとブタさん』 たどころみなみ さく・え)

## 絵と文による冬休み読書大賞受賞者一覧

### 《絵と文部門》

大賞一席	青空のむこうを読んで	札幌聖心女子学院 高2年	寺井 紀恵	『青空のむこう』
大賞二席	チヨロのゆう気	釧路市立鳥取西小 3年	太田 美月	『子ネズミ チヨロの冒険』
大賞三席	ワルルルさんを祖母に重ねて	函館市立港小 6年	川合 優永	『ワルルルさん』
大賞三席	夕焼け空を飛ぶカラス天狗	札幌市立もみじ台南中 2年	小野 萌夏	『本朝奇談 天狗童子』
小学校低学年賞	おなかのうへはあったかい	札幌市立屯田北小 1年	安永 響	『らっこのうみ』
小学校低学年賞	なかよしな人間とラッコ	根室市立海星小 2年	岡村 彩那	『らっこのうみ』
小学校中学年賞	まさお君の手紙	釧路市立釧路小 3年	岩田有季奈	『天の町やなぎ通り』
小学校中学年賞	新しく生まれる春	室蘭市立水元小 4年	岡本 大輝	『すずをならすのはだれ』
小学校高学年賞	がんばれワルルルさん!	室蘭市立海陽小 5年	古本 聖奈	『ワルルルさん』
小学校高学年賞	壁をのりこえて	苫小牧市立美園小 6年	加藤 萌結	『ぼくがバイオリンを弾く理由』
中学生賞	夢からもう力	札幌市立屯田北中 1年	安永 楓子	『ドリーム・ギバー 夢を紡ぐ精霊たち』
中学生賞	私の未来地図	札幌市立簾舞中 2年	伊田菜々花	『空色の地図』
高校生賞	甘やかな時間と未来への行進	札幌聖心女子学院 高1年	逢坂 瞳	『ミーナの行進』
学校賞	室蘭市立海陽小学校			

### 《読書感想絵ハガキ部門》

北海道学校図書館協会賞	サルくんとブタさん	北海道教育大学附属函館小 1年	藤澤 柊生	『サルくんとブタさん』
北海道新聞社賞	まさお君	札幌市立常盤小 4年	宮下 航太	『天の町やなぎ通り』
北海道新聞社賞	お好み焼きに こめられた愛	札幌市立屯田北小 5年	石田 朱里	『ワルルルさん』
北海道新聞社賞	絶対にあきらめてはならない	立命館慶祥中 1年	白川 侑依	『十二番目の天使』
学校賞	立命館慶祥中学校			

### 大賞一席

### 青空のむこうを読んで

札幌聖心女子学院 高等学校2年 寺井 紀恵

もし私が突然に理不尽な死を迎えたならば必ずこう言うだろう。「なぜ私が」と。私はまだ何十年も生きるつもりだったのだし、身の周りの整理すらついていないに違いない。主人公のハリーもまた同じだ。トラックにはねられるという事故にあり、死んだ彼はこう言う。「死ぬはずじゃなかったんだけど。」そうしてハリーは死者の国から元いた世界へ戻るのだ。もちろん私もそうするだろう。何も為す事なく、全てが中途半端なまま死ぬのは私にとって何よりも恐ろしいからだ。

しかし戻るといふ事は、誰が私を認めてくれるでもない世界へ行くといふ事だ。伝わらないと知っていたながら、それでも私は知り合いに呼びかけ続けるだろう。やがて、嫌でも私はここにはいはいけないと悟らされる。一人もふりむいてくれないのは全て、私が死んでしまったからなのだから。

生きている、というのは、私たちが考えている以上に素晴らしい事なのだろう。人生は単純な日々の繰り返しだと私は考えていた。だがその円環の中にこそ、死んでは得られない変化が多くあるのだろう。クラス替え、委員の変更など、日常的なことですら生きていなければおとずれない時の流れだ。そして、死んでしまえばもう二度と自分の時間は流れない。そこで止まってしまおう。

ハリーが元の世界へ戻って感じた疎外感のものは、きっとそこにある。皆の時間は絶えず流れ続けるが、死者であるハリーはある一日におき去られたまま進めない。

死ぬというのは、おそらくそういう事なのだろう。人の心には残っても、ある一点を動かすとはしない。幼い頃祖父を亡くした時もそうだった。小学生だった私は高校生になったが、祖父の姿は変わらず、写真の中で微動だにしないのと同じだろう。

日々と時間を積み重ねて変化し、流れゆく時の中でどれだけ必死に歩くのか。それが、生きるという事なのだろうと私は思う。

(『青空のむこう』アレックス・シアラー 著)



**大賞二席****チヨロのゆう気**

釧路市立鳥取西小学校3年 太田美月

さいしょは「へっちゃらだ。」と思っていたことが、だんだんおそろしくなったりすることは、私にもけいけんがあります。おばけやしきに入る時や、ジェットコースターに乗った時で、だからチヨロと同じ気持ちでドキドキしながら読んでいきました。

ウノに出会ったから、チヨロはいろいろなちえとゆう気を身につけていったのかなあ。こわいヘビのマダラにのみこまれそうになった時とか、いのちのおん人のウノを助け出す時なんか、ぜったいゆう気がないといけないよ。それに、弱ったマダラをゆるしたチヨロのやさしさにもびっくり。

さいごにチヨロが、たくさん野ネズミたちによるこんでむかえられたので、私も「チヨロ、よかったね!」と言ってあげました。

そして、まほう使いがチヨロに「ちえとゆう気が道をひらくのじゃ。」と言った言葉に、私も「そうなんだ!」となっとくし、これからもわすれないようにしたいと思います。

(『子ネズミ チヨロの冒険』さくらいともか 作・画)

**大賞三席****ワルルルさんを祖母に重ねて**

函館市立港小学校6年 川合優永

世界では内戦状態の国があります。日本は十五年前に阪神・淡路大震災というマグニチュード7.3の直下型地震が兵庫県南部で発生し、死者6433人、けが人約35000人にのぼる大惨事になりました。ワルルルさんは、戦争も地震も差別も、全ての地獄を経験しても、前向きで、心の強い明るい人です。きっと復興をとげた皆さんもそんな人がたくさんいたから乗り越えられたのだと思います。

ワルルルさんは、私の祖母に重なります。祖母も戦争を経験し、何もない所から立ち上がった人です。90歳を過ぎた祖母が、戦争の話をしてくれる時、その目は潤んでいます。

しかし、直接経験のない歴史は、まるで博物館見学をしているかのような人が多いように感じます。残念です。私は、来未のような目線で物事をとらえ、復興してきた人達のおかげで今の平和があることにもっと感謝と、その強さを学ばないといけないと思います。祖母の涙をみる時、心からそう思います。

(『ワルルルさん』畑中弘子 文/三枝三七子 絵)

**大賞三席****夕焼け空を飛ぶカラス天狗**

札幌市立もみじ台南中学校2年 小野萌夏

かつて日本の暮らしは、身近な自然と深く関わり、支え合って生きてきた。古くから伝わる民話には、タヌキやキツネが頻りに登場する。また、河童やもちろん天狗も、日本各地に出没した。人々が生活するすぐそばに、当たり前のように小動物や今となっては想像上の生き物になってしまった河童や天狗達も暮らしていた。

いつから人間は、身近な自然と関わるのがなくなったのだろうか。それは、人が人のことしか考えられなくなったからではないかと思う。自分達の便利な生活だけを追い、山や海をつぶし、道路を造り、港を造り、あらゆる川は、洪水を防ぐために直線にされたりダムが造られたり…。このままだと様々な生物は、人から離れ、もう戻れなくなるのではとても不安になってくる。そんなのは絶対に嫌だ。里山に、小天狗がはばたきの練習をし、子ギツネにほんの少しだけ騙されるなんて愉快ではないか。

動物達や河童、天狗がまた姿を現してくれるには、アイヌの人々の生活にヒントがあるのではないか。生物の命は神とされ、食料にする分だけ感謝して頂くという考え方だ。自然の恵みから命をもらっているから、人は生きていける。そのことを決して忘れてはいけない。一度失われた動物達が戻ってくるには、長い月日がかかり、とても難しいことだ。トキが再生されるのに、どれだけの苦労と年月がかかったものか。でも、人間が自然との共生を強く意識した生活ができれば、失われたカワウソ、日本オオカミなどもきっと、ひっそりと隠れている土地から戻ってくるだろう。また、天狗達も、隠れ家から現れ、人間達と関わりながら、その技を磨くことだろう。

最近、「生物多様性」という言葉を度々ニュースで聞くようになった。アイヌの人々の考え方はまさに「生物多様性」の考え方そのものだ。私も含め、全ての人々が、アイヌの人々の生活を実践できればと強く感じる。

(『本朝奇談 天狗童子』佐藤さとる 著)

# 入賞者一覧（奨励賞）

## 【絵と文部門】

### 小学校低学年（13名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
おじさんとかんらんしゃ	宇野 美咲	札幌市立太平小	1	ゆうえんちはおやすみ
あたらしいかぞく	鈴木 俊太郎	札幌市立福住小	1	らっこのうみ
げんまん げんまん	島 子莉緒	札幌市立幌西小	1	げんまんげんまん
大人になったら	高橋 直希	滝川市立東小	1	タラがだいはっせいしたら
ゆうえんちはおやすみ	森 咲遥	中標津町立東小	1	ゆうえんちはおやすみ
「うえにはなあにしたにはなあに」をよんで	富田 海斗	函館市立昭和小	1	うえにはなあにしたにはなあに
『まほうのじどうはんばいき』をよんで	乾 藤全	北海道教育大学附属函館小	1	まほうのじどうはんばいき
「サルくんありがとう」	乾 怜枝	旭川市立知新小	2	サルくんとブタさん
どのように説明したのかな？	齋藤 舜仁	札幌市立北九条小	2	ゆうえんちはおやすみ
やさしいライオン	影長 真波	札幌市立白楊小	2	としょかんライオン
「たいこ」ってこんな音	菅原 優波	函館市立本通小	2	サルくんとブタさん
「まほうのじどうはんばいき」を読んで	高梨 駿太郎	北海道教育大学附属旭川小	2	まほうのじどうはんばいき
えがおっていいな	田 中 ひまり	北海道教育大学附属函館小	2	ゆうえんちはおやすみ

### 小学校中学年（15名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
光の道を歩く局長さん	田 中 竜太郎	札幌市立清田緑小	3	天の町やなぎ通り
「チヨロ海へ」	日比野 敬太郎	札幌市立本郷小	3	子ネズミ チヨロの冒険
『おひさまのワイン』を読んで	松 川 沙世	札幌市立真駒内南小	3	おひさまのワイン
ゾンネおばさん 待っててね	秋山 友香	札幌市立真駒内南小	3	おひさまのワイン
思いをとどける局長さん	藤谷 友香	北斗市立市渡小	3	天の町やなぎ通り
おひさまのワイン	佐藤 菜々子	北海道教育大学附属札幌小	3	おひさまのワイン
がんばる強さと信じるゆうき〜チヨロから教えてもらったこと〜	日達 智哉	室蘭市立海陽小	3	子ネズミ チヨロの冒険
頭を使え！	藤 達 貴	恵庭市立恵み野小	3	対決！なぞのカーディガン島
おじいちゃんへの手紙	山田 七海	江別市立中央小	4	天の町やなぎ通り
がんばれチヨロ	鈴木 絵	上富良野町立上富良野西小	4	子ネズミ チヨロの冒険
いつもかがやく天の町	松井 楓夏	釧路市立鶴野小	4	天の町やなぎ通り
「子ネズミチヨロの冒険」を読んで	赤星 麟太郎	札幌市立真駒内南小	4	子ネズミ チヨロの冒険
青い地球を守れ！宇宙スパイウサギ	佐々木 祥汰	函館市立駒場小	4	対決！なぞのカーディガン島
「おひさまのワイン」を読んで	佐々木 加菜	室蘭市立絵鞆小	4	おひさまのワイン
アイヌの昔話	阿 部 真己	室蘭市立海陽小	4	アイヌの昔話よりセミ神さまのお告げ

### 小学校高学年（15名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
プール食べられる。	深川 陸	恵庭市立恵庭小	5	緑の石食い虫
あきらめないよ	利 萌	七飯町立峠下小	5	ワルルルさん
私のおばあちゃん	浅谷 陽花	函館市立昭和小	5	おばあちゃんのきおく
「ワルルルさん」を読んで	下池 未華	函館市立磨光小	5	ワルルルさん
「こんなことになるなんて……」	岸本 進太郎	北海道教育大学附属札幌小	5	緑の石食い虫
私のパートナー	佐藤 菜奈	室蘭市立高平小	5	アンソニー、きみがいるから ―百毒犬がはこんでくれたもの―
ワルルルさんへ	山崎 若菜	室蘭市立中島小	5	ワルルルさん
笑顔の花	佐藤 彩	旭川市立知新小	6	アンソニー、きみがいるから ―百毒犬がはこんでくれたもの―
災難をのり越えて	小野 百合子	小樽市立潮見台小	6	ワルルルさん
やってみたいな、海獣のお医者さん	岩田 紗有美	釧路市立釧路小	6	わたしは海獣のお医者さん
悲しみをのりこえたワルルルさん	伊藤 麻紋	札幌市立西岡南小	6	ワルルルさん
ワルルル	小野 柚香	札幌市立みずほ小	6	ワルルルさん
引き継がれていく心	松原 礼奈	滝川市立滝川第三小	6	ワルルルさん
海獣が教えてくれたこと	神 文香	函館市立深堀小	6	わたしは海獣のお医者さん
アンソニーと共に〜桜の木に思いを馳せて〜	佐々木 琴華	北斗市立浜分小	6	アンソニー、きみがいるから ―百毒犬がはこんでくれたもの―

### 中学校・高等学校（5名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
私らしく	久保島 菜摘	釧路市立青陵中	2	ガール！ガール！ガールズ！
「自分」というオリジナル	本多 優衣	札幌市立平岡中	2	ガール！ガール！ガールズ！
たまご	明石 さや子	札幌聖心女子学院中	2	メント
本当の自分	川井 由衣	深川市立音江中	2	ハチミツドロップス
ゴッサマー〜未来を照らす光〜	喜久川 智世	藤女子中	2	ドリーム・ギバー 夢紡く精霊たち

## 【読書感想絵ハガキ部門】

### 小学校低学年（6名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
はつゆきをふらせた まほうのじどうはんばいきとじいちゃん 大切なもの	安 部 由 乃 落 合 七 菜 花 田 口 雅 乃	登別市立幌別小 札幌市立西園小 北斗市立茂辺地小	1 2 2	はつゆき まほうのじどうはんばいき サルくんとブタさん
ブタさんに楽しい音のなみだをプレゼントしようよ。 まほうのじどうはんばいき サルくんへ	柴 沼 玲 実 田 中 沙 英 北 野 大 地	札幌市立富丘小 函館市立駒場小 室蘭市立海陽小	2 2 2	サルくんとブタさん まほうのじどうはんばいき サルくんとブタさん

### 小学校中学年（6名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
本当の気持ち 対決！なぞのカーディガン島 勇かななチヨロのように。	安 部 夢 乃 谷 本 基 皆 川 理 梨	登別市立幌別小 岩見沢市立岩見沢小 函館市立柏野小	3 3 3	3年1組ものがたり 5月は花笠！ 対決！なぞのカーディガン島 子ねずみチヨロの冒険
おひさまのワイン みんなの力 かわいそうなうさぎ	沢 野 優 佳 今 野 沙 羅 伊 勢 彩 乃	函館市立八幡小 室蘭市立地球岬小 函館市立日吉が丘小	4 4 4	おひさまのワイン おひさまのワイン すずをならすのはだれ

### 小学校高学年（5名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
弟への気持ち 緑の葉食い虫！？ 緑の石食い虫 友達って？ ペルーガへ	棟 方 僚 亮 高 橋 萌 惠 植 津 恵 子 渡 邊 有 也 高 山 桃 果	札幌市立北光小 江別市立大麻西小 札幌市立石山南小 函館市立磨光小 森町立森小	5 6 6 6 6	緑の石食い虫 緑の石食い虫 緑の石食い虫 きりんゆらゆら わたしは海獣のお医者さん

### 中学校・高等学校（6名）

作 品 名	氏 名	学 校 名	学年	著 書 名
ドリームギバーを読んで 図書館戦争を読んで 月のえくぼを読んで 「大切」なもの 手をつなごう！ Re:希望の国のエクソダス	木 村 優 希 鈴 木 葵 衣 船 岡 未 弥 子 湯 原 真理子 江 頭 綾 乃 木 村 早 苗	立命館慶祥中 立命館慶祥中 立命館慶祥中 石狩市立花川中 立命館慶祥中 札幌開成高	1 2 2 2 3 2	ドリームギバー 夢紡ぐ精霊たち 図書館戦争 月のえくぼを見た男 麻田剛立 パディ たいせつな相棒 世界がもし100人の村だったら 希望の国のエクソダス

## 審査総評

### 第30回絵と文による

### 冬休み読書大賞の審査を終えて

今年度「絵と文による冬休み読書大賞」は、30回目という大きな節目を迎えました。保護者の方々の中には、ご自身も子どもの頃に応募した経験をお持ちの方がいらっしゃるのではないのでしょうか。昨年度と比べて500点強も増加し、「絵と文部門」が1,506点、「絵ハガキ」部門が2,601点、合計4,107点もの応募がありました。たくさんの皆さんが読書に親しみ、感動を「絵と文」で表現してくださったことを大変嬉しく思います。

三回にわたり、作品一点一点を絵と文の両方から慎重に審査いたしました。最終審査に残った作品はさすがに甲乙つけがたく、賞の決定に苦労しました。審査していく中で、応募された皆さんの心豊かな育ちを感じることができました。

「絵と文部門」は、昨年より200点ほど減少しました。しかし、絵と文両方の水準が高く、バランスのよい充実した内容の作品が、学年が進むにつれて多く見られました。大賞一席の寺井さんの作品は文に主張が

審査委員長 小島 健一（札幌市立琴似小学校）

あり、絵の表現力・技術力も高く評価され、久しぶりに高校の部からの受賞となりました。なお、絵では、明らかに大人の手が入ったであろうと思われる作品が今年もあり、審査対象から外されてしまうものもありました。

「絵ハガキ部門」は、学校や学級ぐるみの応募が目立ち、昨年より750点も多い応募をいただきました。応募数が大幅に増えたことは嬉しいのですが、特に小学校では、規定の字数（50～100字）を超えてしまったものが多くあったことは残念でした。大賞一席の藤澤さんの作品は、子どもらしい素直でのびのびした表現の絵と文が高く評価されました。審査していく過程では、絵の中に文字をどう構成していくのかが大きなカギとなりました。

来年もまた、自分に合った本と出会い、読書の楽しさを味わい、多くの皆さんがその感動を作品にして応募して下さることを期待し、お待ちしております。



## 第42回 北海道学校図書館研修講座

1月7日(木)～9日(土)、北海道立道民活動センター(かでの2・7)、札幌市立新陽小学校、藤女子大学図書館を会場として開催し、130名を超える参加者がありました。講座の様子から、一部を紹介します。

\* \* \*

### ■選択講座：ステップアップコースから

#### 講義・実習「学校図書館クリニック」

旭川市立愛宕中学校 司書教諭 加藤 直子

研修講座の「学校図書館クリニック」は3回目の実施となりました。

今回は新陽小学校を会場に研修をさせていただきました。館内のリニューアルを目指して、書架の並べ替え作業をしながら参加者全員で色々と意見を出し合いました。残念ながら今回は書架の並べ替えを終えた段階で終了時刻が来てしまい、本を元に戻す作業は、受け入れ校の先生方と開放司書さん、ボランティアの方々をお願いすることになってしまいました。2教室分ある、広い図書館に1万冊以上の図書がありました。3時間という短い時間ではありましたが、参加された方々の熱心な取り組みにより作業を進めることができました。皆さん、お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

「家は三回建てれば本当に満足のものができる。」と言われていきます。一生懸命に考えて設計図を作り、家を建てるのだけれど、いざ住んでみると改善点がたくさん出てくる、という意味だと思えます。使い勝手の良い学校図書館にするためには、何度も試行錯誤をくりかえして作業をしてみるのが一番ですが、実際の勤務の中ではそう何度も取り組めることではありません。

この研修の中で、誰よりも実践のためのアイデアを得て活用させていただいているのは、実は担当させていただいている私自身だと思います。あちこちの学校図書館を拝見し、色々な工夫を見せていただき、その中で「もっとこうしたいんだけど一緒に考えませんか。」という実践的で発展的なお話を聞くことができる。そして、研修会当日は道内各地から集まってきた皆さんが丁丁発止と意見を出し合い、より良い学校図書館にするための意見交換をしながら作業をする。一つ一つの作業の中にも、実践家の方々から学ぶことがたくさんあります。自分一人で考えていたときの数倍のアイデア・ノウハウに出会い、実りある貴重な体験をさせていただいています。

校内で図書館担当・司書教諭一人で取り組むのは大変です。「近隣の学校の図書館担当者で協力し合ってはどうか。」「三人寄れば文殊の知恵」「助け合うのはお互いさま」の発想から生まれてきたこの取組ですが、道内各地の皆さんの日々の実践のお役に立ていただければ幸いです。

### ■研修講座に参加して(小学校)

札幌市立星置東小学校教諭 渡部みずき

図書館担当として始まった今年度。司書教諭としてすべきことは何なのか、また開放司書の方やボランティアのお母さん方との連携について、いつも悩んでいました。司書教諭の仕事を基礎から学び直したい、また他の学校ではどんな取り組みをしているのだろうという思いをもち続けながら、なか



なか動き出せない状態が長く続いてしまっていました。そんな私のもとに届いたこの研修案内は、希望の光のようでした。

講座では講師の先生方の様々な実践を目の当たりにして、その引き出しの多さと学校図書館に対する熱意に圧倒されました。自分の学校のことを思い浮かべながら講座を受けていく中で特に印象に残ったのは、本を通して子どもや先生方をつないでいく活動について紹介されていた読書指導の講座でした。子どもが本を読みたくるように考え出された様々な工夫は、私自身もわくわくさせられるものばかりで、本当に目から鱗という感じでした。効果的な掲示板の活用例なども紹介していただき、自分でも試したくなる実践ばかり。とても楽しく学ばせていただきました。

私にとってこの3日間は、どの日も一日が終わるのが、あっという間という大変充実した研修となりました。まずはできることから始め、経験を積み、子どもや先生方にこの研修で感じた読書活動の楽しさを広めていきたいと思いました。ありがとうございました。

### ■研修講座に参加して(高等学校)

浦幌高等学校 非常勤実習助手 大関あすか

図書館に携わり6年目になります。今年度で本校が閉校となるため、最後の図書館運営となりました。最後の3年生が少しでも図書館を利用しやすくなるように、そんな気持ちの中での研修会の参加となりました。

3日間の研修では講演と4つの講座に参加しました。その中でも特に印象に残っているのは初日の「朗読を楽しもう」です。「相手の心にどのようにして伝えていくか」ということを基本的なことから学びました。

日頃は、どのように伝えるかということはあまり意識せずに話をしてしまいましたが、改めて考えると極めて大切なことだと実感しました。一般的な会話の中では言葉よりも表情のほうが強くつたわるため、一語一語はっきりと丁寧に発音することで相手とのコミュニケーションアップにもつながることを知りました。

また、言葉を相手にとって「理解しやすく」「印象に残す」ための方法がスキルとして存在していることが印象的でした。自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びは誰でも同じです。私も相手の話を理解したい、いつも思っています。

今回の研修で学んだことを、日常生活や教育活動の現場で実践していきたいです。最後に、この研修講座はいつも楽しく学べ、終わった後はとても元気になる私のビタミンです。



# 学校図書館情報

【国民読書年  
ロゴマーク】



### ◆平成22年度 北海道学校図書館協会 定期総会の開催

- ・日時 平成22年5月15日(土) 13:30～
- ・場所 北海道立道民活動センター  
(かでの2・7) 特別会議室  
札幌市中央区北2条西7丁目  
各支部の総会参加をよろしくお願いいたします。

### ◆第37回全国学校図書館研究大会(静岡大会)のご案内

- ・大会主題 「知識をつなげる 学びをひろげる  
心をはぐくむ 学校図書館」
- ・期 日 平成22年8月4日(水)～6日(金)
- ・会 場 静岡県コンベンションツァーセンター  
(グランシップ) JR東静岡駅南口より徒歩3分
- ・参加費 6,500円

### ◆全国学校図書館協議会総会・各県事務局長会議開催

2月4日(木)東京の学校図書館センターで、午前中は定期総会、午後から各県事務局長会議が開催されました。北海道からは会長大久保と事務局長野村が参加しました。

活動方針として、特に「学校図書館及び青少年の読書の振興」では、①全国SLA創立60周年記念事業の展開、②「国民読書年」関連事業展開へ連携、そして、新学習指導要領の完全実施に向けての取組、③全校における読書指導の推進、④情報活用能力の育成の指導の推進、⑤学校図書館の機能強化の推進、が強調されました。また、学校図書館を支える人の問題として、司書教諭の配置拡大と活動の充実、学校司書の配置促進と法制化の推進に向けて運動を展開していくことの重要性が話し合われました。

2月5日(金)午前の国会議員への陳情活動では「学校図書館の充実についてのお願い」として、①司書教諭の専任化と学校司書の法制化、②学校図書館の図書の実充のための予算措置、③教育課程に「読書の時間」の設定、の3点をお願いしてきました。

### ◆第55回青少年読書感想文全国コンクール

- 表彰式 平成22年2月5日(金) 東京會館  
北海道からは、4名が入賞、11名が入選となりました。
- 優秀賞(毎日新聞社賞)  
西田 将喜さん(旭川西高等学校2年)
  - 優良賞(全国学校図書館協議会長賞)  
齋藤楓海乗さん(札幌藤女子中学校2年)
  - 奨励賞(サントリー奨励賞)  
ジミー・スティーンさん(森町駒ヶ岳小学校4年)  
青木 杏佳さん(旭川知新小学校6年)



西田さんと『夏から夏へ』  
著者佐藤多佳子さん



齋藤さんと『8分音符のプ  
リユード』著者松本祐子さん

## 事務局

〒062-0054 札幌市豊平区月寒東4条18丁目10-45  
札幌市立しらかば台小学校内  
事務局長 野村 邦重  
TEL 011-852-4090  
FAX 011-852-2379  
e-mail kunishige nomura@city.sapporo.jp

# Amenity B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発揮するブックカバー「アメニティBコート」ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。ご指定の上ご愛用下さい。

## キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15  
TEL (011) 857-3331  
FAX (011) 857-5211

### ◆「北海道指定図書」の普及・活用を!

学校図書館での購入を広げてください。読書感想文全国コンクールの課題図書と一緒にセットで購入をお願いします。

### ◆学校図書館ブッククラブ(SLBC)の積極的活用を!

新刊図書の購入は、SLBCのリストから選び、出入りの業者の方へ「SLBCをお願いします。」と伝えるだけです。活用しましょう。広げましょう。

### ◆第52回北海道図書館大会のお知らせ

- 日時 平成22年9月9日(木)～10日(金)
- 場所 北海学園大学
- 大会テーマ 「国民読書年～今こそ図書館は力～」
- 基調講演・分科会&セッション・特別講演を企画中

### ◆第33回北海道子どもの本の集い 今金大会のお知らせ

- 日時 平成22年8月7日(土)～8日(日)
- 場所 今金町民センター・今金小学校
- メインテーマ 「すべての子らに本の楽しさを」
- 講師 絵本作家 とよたかずひこ(豊田和彦)さん
- 主催 北海道子どもの本連絡会

※ 上記、大会等の詳細については、それぞれの関係ホームページをご覧ください。

## 編集後記

新型インフルエンザの猛威に見舞われた今年度もあと少しで終わろうとしています。皆様には年度末のお忙しい日々をお過ごしのことでしょう。本号は30回を迎えた『絵と文による冬休み読書大賞』の特集と1月に開催された第42回北海道学校図書館研修講座の報告を掲載しております。

年に5回発行される機関紙『北海道の学校図書館』ですが、これからも学校図書館に関する様々な情報をお伝えし、皆様にとって役立つものにしていきたく思います。もっとこんなことを掲載してほしいなど、ご意見・ご要望がありましたらどしどしお寄せください。よろしくお願ひいたします。

編集: 杉本 操 村山 知成 佐藤 秀則  
野村 邦重 飯島 道恵

ホームページアドレス

<http://www.hokkaido-sla.jp/>